

オリーブの会通信

2013年2月7日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0078 高松市今里町一丁目 499-2
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)
<http://khj-olive.com/>



第128回月例会ご案内

日 時	2013年2月24日(日) 13:30~16:00 (受付:13:00~)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 第1・2研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~13:40 報告・連絡(川井) 13:40~14:20 「2013年度の当会の組織のあり方 及び事業運営について」 ※当日 意見、提案などお持ちよりいただきますよ う、参加できない方はFAXでお願いします。 14:20~14:50 親の体験談 14:50~15:00 休憩 15:00~16:30 小グループに分かれての話し合い
参 加 費	・会員 1家族 1,000円 ・非会員 1家族 1,500円

昨年は 高松市との協働企画提案事業「地域でひきこもりを考える」の開催にあたりましては、関係者の皆様にご多大世話になり、有難うございました。事業の目的は、まだまだ偏見のある「ひきこもり」を、地域の人たちに正しく理解してもらおうというものでした。

当日（H24.12/16）のシンポジウムの内容の一部ですが、親の会の川井は、ひきこもり状態はそれぞれ異なるため、きめ細かい支援が必要だが、親がひきこもりを隠すと長期化してしまい難しくなり有効な支援が受けられない、また居場所の重要性などについてお話ししました。市の保健所保健センター木村氏は、ひきこもり担当者の支援の現状と課題のなかで、多様なひきこもりの相談関係機関の連携がとれていないということ、県の精神保健福祉センター藤田氏は、アンダントの課題のなかで、居場所作りは必須であり、開拓・新設の検討が必要であるということ、それらはまた当会の要望事項でもあります。

また、さぬき若者サポートステーションの総括コーディネーター鷺見氏は、サポステのひきこもり支援は、ひきこもりの人が出口を探しているときに、寄り添う支援ということで、現在 当会の居場所に来ることができている若者に、関わっていただいております。

ひきこもり当事者主体のNPO法人グローバル・シッパスこうべの森下氏も、当会の居場所、当事者の支援員として来ていただいております。支援について森下氏は、当事者、支援者、家族の方々との出会い、交流があるなかで、いろいろな疑問に対し、当事者から声を出していかなければならないと、また当事者は在宅で働きたいという希望が多いので、外に出ずにできる仕事を開拓していきたいとも語っていました。

グループミーティングでは、ファシリテーターの竹森元彦氏（香川大学アーツ・サイエンス研究院教授）のもと、グループ別に参加者から投げられた意見、質問などを、うまく調整してくださったので、シンポジストは返答がスムーズにでき、参加者とのキャッチボールがうまくできたのではないかと思います。

また、実際に関係しているシンポジストの方の視点で答えていただけたので、身近に感じることができました。ひきこもり当事者、家族にとって、社会のなかでの生き難さ、ひきこもり支援の困難さも、全く知らなかった方にも少しはご理解いただけたのではないかと思います。

以 上

【1月例会（1/27）の報告】

講演 「新しいワーキングスタイルの追求」（資料あり）

講師 NPO 法人 JCI テレワーカーズ ネットワーク

理事長 猪 子 和 幸 氏

皆さんには、私の 14 年間の歩みの中から活用できるもの、どんなところで続けていけるか、今日を出発点としてどうやっていけるかを考えて欲しい。

1 歩 み

人間の本当の生き方は自分の家で仕事をするのが最も人間らしい働き方です。子供は父の背中を見ながら育ち、母の姿を見ていると子育てに役立つのです。

団体では、当初 346 人の会員がいたが、今は、再登録した 126 人(約 90%が障害者、10%が難病者)と一緒に仕事をしている。

団体には敷居は無い。希望があれば対面で話をし、「明日から来る気になったか」「はい」で入会金、会費なしで入れる。

運営は、14 年間、自分たちで仕事を作り、報酬の中から 30%を事務所に納付してもらい、一人ひとりががんばって作ったお金が活動資金になる。がんばれば貢献度も上がる。障害者は 40 歳を過ぎると身体の劣化があり、仕事は出来ないが報告便りが心の支えとなり毎日がんばっている。



仕事のために勉強し、工夫し、アイデアを出す。新しい仕事が出ると楽しくなる。

一人ひとりが、日常から生まれてくる「IT 技術」や「インターネット」を使って出来る仕事を収益まで高める。1 円でも差額を増やすと心が豊かになり、経済的に豊かになる。

チャレンジドとは挑戦者と訳します。胸を張って生きて行きたいと言っても難病の患者、症状の上下、手帳をもらえない人もいる。

そのような中で、活動の拠点となる「ログハウス」を自己資金(退職金)で建てた。

「折り鶴」は、生後まもなく高熱を出し体の機能を失い脳の指令どおりに体が動かなくなり足だけで生活する彼女が折ったものです。1 時間に 1 羽折るのが精一杯です。

彼女は、足で似顔絵を描いたり、注文どおりの名刺を作ったり、パンフレットの挿絵も頼まれたりしている。

2 立ち上げと理念

テレワーカーズ・ネットワークでは、在宅で仕事をする人がライフスタイルに繋がっていくことで人間らしい仕事となればと考えている。

平成 11 年 4 月 1 日(退職の翌日)、民間の任意団体として立ち上げ、すぐ仕事に入った。

団体では、お互いの個性と人格と生き方を尊重し合い、共存共栄する社会こそが、人間社会の真の在り様であり、「働くことを通じて自己実現を図り、社会に貢献すること」がすべての人の権利であり義務であるとの強い思いがあります。

3 道具

ICT(情報通信技術)を使って時間と場所の制限から開放し、ワーキングスタイルを変えた。

ワーキングスタイルとライフスタイルの一致が理想とする生き方と考えている。

4 キーフレーズ

「自立」「継続」「発展」の三つである。この三つのキーフレーズを統括する仕事、ソーシャルビジネスを目指している。

5 指導者の育成

私は、「障害特性に応じた指導者」が必要となり、障害者生活支援センターへ出向き、「障害者の仕事出来る仕組みを作りたいのでパソコンをやりたいという人」を頼んだところ、7 人を集めてくれた。その者と勉強会を始め、指導者の育成を行った。1 年間教えて知識をつけた指導者に新人の教育を頼み、後は助言のみとした。授業は 1 年生が行い、毎年やると教育の拡大再生産となり、助成金の中で教えることが出来るようになった。

そして、仕事出来る知識だけでなく、指導者の意識が高くなっていった。

6 仕事

仕事には「厳しさがあること」を教える必要があった。「IT 講習会」は我々の団体が継続的に自分達で運営している。足で鶴を折る彼女は、マスコットガールとして明るい笑顔で仕事をし、結婚もして子供を産みたいとも言っている。

7 仕事の基準

障害者だからといって自分がいやな仕事には、「この仕事に誇りを持って出来ますか」と声かけすることを基準としている。

障害者でなければ出来ない仕事で収益を上げるように高めていく。

得手を生かしたチームプレー、得手で分担し、協力して仕事をし、クライアントからのクレームは無い。もし、主たるメンバーが倒れた時は代わってやれるという一人ひとりの気持ちを大切にしている。

8 在宅の仕事

中央省庁のホームページのアクセシビリティ診断・評価・修正などの仕事を手分けしてやり納期までに再委託先に納めることが出来た。500 頁の印刷物でもクレームは一切なかった。

徳島県警のホームページ（愛される県警、イラスト入り）も作らせていただいた。

9 意識改革

障害者（足しか使えない彼女）に外見から厳しい評価（差別）をされる。

初対面は暗く、言葉使いは低いがビデオの中では生き生きしている。マイナスをプラスにして物の考え方を必ずプラスに変えている。重度障害者は職場に行かなくてもいいと考えると世の中が楽しくなる。仕事を通じて勉強している。仕事を通じてクライアントからお金を一円でも貰えたとき「ありがとう」と言う。逆風を追い風（回れ右すればよい）にしながら自分の意識改革をしている。

10 チャレンジド

団体では、複合的な運営を行っている。ヤマトのメール便のポスト役をしているが、もし、一つだめなら全て駄目になるので常に新しい仕事を作っていくのも仕事です。

前に向かって闘っていくしかない。腹をくくり覚悟を決め、共有することで団体のまとまりが出来るのです。

11 パートナー

マイクロソフト社(日本)から「パートナーになって下さい」ということになり、県内の支援をしていくことで「助成金」をいただいた。昨年、総務省の 3,000 頁もの資料分析を、3 か月かけて、30 人がかりで仕上げた。

四国内で障害者の就業支援を行っている団体に声かけをして、「四国地区障害者就業支援ネットワーク」を立ち上げました。

徳島県、香川県、愛媛県の 8 団体の方に参加していただき、勉強会を 5 回実施しました。

いい仕事のできる集団作りが大事と考えている。

データ入力、ウェブショッピング、原稿依頼、要約筆記なども行っている。

12 就業環境整備

「事務局」平成 16 年鳴門市の鉄筋の建物を借用し、自分たちでバリアフリー化した。

家賃は毎月 2 万円、年間 24 万円支払っているが、平成 23 年に建物も老朽化し、「使えるまで使って下さい」ということになった。

「講習会」女性一人に 4 人のノートテークが付き、3 人の受講生には 5～5 人が付いている。

13 ビデオ 「生きる」四国放送のディレクターが取材し、全国放映したもの

JCI テレワーカーズ・ネットワークはチームプレーで成り立っている。

不況になっても対応できる本物になれるようにレベルアップし、IT での自立を目指し 8 部門を設けた。

厳しい雇用環境の中で JCI で再起された人もいる。今まで以上に収益事業を目指す。

ただ、事業を発展させるためには課題もある。印刷・帳合以外は在宅で出来る仕事（クラブヘッツドの編み物等）もある。

14 課題

- (1) 研修の機会 ～3 ヶ月、330 時間 IT 勉強の場所と機会がない
- (2) 機器の脆弱性
- (3) テレワークの業務管理～家での状況がわからない、実務的にハードルが高い
- (4) テレワーク環境の整備～データ管理が十分出来ない

15 対応

平成 22 年度総務省の「地域雇用創造 ICT 絆プロジェクト事業」に採択され、JCI 在宅就業支援センターに 4,000 万円をいただきコンピューター（ハード、ソフト）を整備し

- (1) e-ランニングシステム ～自宅学習しながらレベル判定がきる
 - (2) 在宅業務管理システム ～シンククライアントサーバー利用で個人認証機能可能
 - (3) シンククライアントシステム～クラウドコンピュータ利用で情報漏えいの防止
- を開発して課題を克服した。このシステムは全国に発展させたいと思っている。

16 質疑応答時の講師のお話

- 「子供育て」 10 年はかかる。環境を変える場を提供できるのでファーストコンタクトの場を作りましょう。
- 「e-ランニングシステム」 各コースに登録すれば、自宅で継続して学習でき、判定テストもあるので、引きこもりの子供たちには向いているかもしれない。パソコンに誇りと自信がもて仕事ができるようになるかもしれない。
- 「外からの仕事」 精力的にアクセスを行う。地道に努力していれば問いかけてくれる人のおかげもある。人を育て、本物を育てておけば注文は来る。
- 「障害者自立支援法」 A・B 型の方式は取り入れません。これからも採らない。人づくりをしていく。

以上

【ポパイの会】 1/27（日）13：30～16：30

1 月のポパイの会は、県社会福祉総合センターで親の月例会と一緒に開催しました。同じ場所での開催は数年ぶりのことで、今のポパイの会の若者にとっては初めての経験でした。

家族と早めに来ていたので、受付なども手伝ってくれました。また、支援員の森下さんと一緒にわかこく (<http://wakamono-isa.com/>) の横山さんが猪子理事長の講演テーマに興味をもたれ、大阪から参加されました。

講演が始まる前に、親の会の隣の若者の部屋で集まり少し話して、次に NPO 法人 JCI テレワーク ネットワーク理事長 猪子和幸氏の講演『新しいワーキングスタイルの追求』を、家族の方々と 1 時間半ほど事業紹介のビデオを視ながら話を聞きました。その後 また若者の部屋に戻ってみんなで話しました。旅行や美術展、仕事・在宅ワークの話が出ていました。ポパイの会をしばらくお休みしていた M さんにも久しぶりに会えて良かったです。また初めて参加の H さんも積極的にいろいろ話してくれました。

(参加者：若者 4 名、横山さん 支援員 1 名 計 6 名)

【2 月・3 月 居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第 2 回拡大理事会	2/ 3	日	13 : 30～	川井
個人カウンセリング (松田先生)	2/ 9	土	9 : 00～	加藤
ポパイの会	2/ 10	日	13 : 30～	横山
第 10 回運営委員会	3/ 3	日	13 : 30～	川井
個人カウンセリング (松田先生)	3/ 9	土	9 : 00～	加藤
ポパイの会	未定			

【129 回 月例会予定】

日 時	2013 年 3 月 24 日 (日) 13 : 30～16 : 30 (受付 : 13:00～)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6 階 研修室
内 容	さぬき若者サポートステーションの居場所 (H25 年度) 開催について 総括コーディネーター鷺見 典彦氏
担 当 G	A グループ

以 上